

冷戦が終焉し、ドイツが平和裡に統一して1993年11月にそれまでの欧州共同体(EC)を再編成し大幅に政策分野を拡充する形で欧州連合(EU)が成立してから既に約20年が経過した。通貨同盟は実現し、共通通貨ユーロも導入されたが、ヨーロッパの多くの国は近年の経済危機、ソブリン危機によって経済的に大きく傷つき、そのような経済状況に対する市民の不満を受け止めきれない政治にも苦悩の色が濃く見られる。冷戦後の新しいヨーロッパの状況と世界の変化に対応すべくEUは条約改正を繰り返してきた。憲法条約の失敗を受け、紆余曲折を経てようやく成立したリスボン条約体制も、経済危機によって追加条約による新たな修正が求められた。また対外活動の要となるべく設立された対外行動庁(EEAS)の機能、外務・安全保障上級代表のあり方についてもさまざまな評価が存在している。

本特集号は現在のEUと関連するヨーロッパの状況が一つの転換期にあるという認識の下に、理論と実証それぞれの側面から多様なアプローチによる論文を掲載することをめざしている。国際関係論の代表的な理論である国際統合論の説明対象であったヨーロッパは、その後理論が想定したような形で展開しなかった。「1992年域内市場プロジェクト」の前後にはかつての理論を修正する形での議論も展開したが、同時にリベラル政府間主義も非常に魅力的な説明方法となった。また、EUの制度が次第に拡充してゆくにつれて、国際政治学からだけでなく、比較政治学や行政学のアプローチを応用したEU研究へも大きく議論が展開していった。構成主義的な方法論の広まりに見られるように、EU研究は国際関係論の説明枠組みから強い影響を受けてきた。しかし次第にEU研究は学際的な色彩を一層強め、EUの制度的発展と表裏一体となって一つの独立した学問領域と見なされるようになってきた。「ヨーロッパ化」をめぐる議論はその代表例であろう。

本特集号はEUを中心とするヨーロッパ統合を扱うが、掲載される論文は狭い意味でのEU研究に限定される必要は全くない。EUとその構成国の総体としてのヨーロッパの対外関係は、新しい次元に入っている。移民問題やテロとの戦いなど拡大と近隣諸国政策の問題、NATO、CE、OSCEとの関連もヨーロッパ理解に不可欠な興味深い領域であろうし、さまざまなサブリージョナルな協力の枠組みとヨーロッパ秩序との関係、安全保障防衛政策(CSDP)の展開のみならず、規範分野などグローバルな秩序形成に向けたヨーロッパの政策展開の新しい次元なども興味深いテーマであろう。またEUとその構成国の関係を説明する議論もガバナンス論やヨーロッパ化論にも見られるよう

に大きく展開してきている。経済や社会分野の統合が政治に与えるインパクトについても、新しい状況がうまれる段階に入っているように思われる。

単線的に一つの方向にベクトルが働くイメージのヨーロッパ統合論はもはや現実にはそぐわない。さまざまなレベルのアクターが複雑な形で相互作用しながらヨーロッパを運営している姿を、新しい切り口から扱う論文の投稿を期待している。またもちろん歴史的なアプローチからも、今日の転換期とも言える状況の背景にある事象の説明によって、ヨーロッパがさまざまな問題を抱えるに至った背景を明らかにするような方法もあり得るであろう。

論文の応募を希望される会員は、論文のテーマと要旨を 600～800 字程度にまとめたものを、自宅・勤務先の住所・電話・FAX・メールアドレスを明記した上で、2014 年 8 月 31 日までに編集責任者へメールでお送りください。本特集号の全体構成などを総合的に検討した上で、執筆をお願いする方には 2014 年 9 月 30 日までにご連絡いたします。なお、論文の最終提出の締め切りは、2015 年 4 月 30 日、論文の分量は注を含めて 2 万字以内とします。また、最終的な掲載の可否は論文提出後に査読を行った上で決定しますので、この点を含めてご了承ください。

執筆要領については学会ホームページをご参照ください。要領を遵守してのご執筆をお願いいたします。

<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お申し込みやお問い合わせは、以下の編集責任者までお願いいたします。

《編集責任者》 森井 裕一
《連絡先》 〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学大学院総合文化研究科 18 号館
電話・FAX : 03-5454-6358 (直通)
e-mail : ymorii ★ask.c.u-tokyo.ac.jp

(★を@に置き換えてください)